

<私（米田）にとって、系図解読とは何か・・系図から見えてくること・・>

米田 喜彦

<見出し>

◎はじめに

◎第一章：（独自の）系図解読の方法：（その1）・（その2）。

◎第二章：「国譲り」の系図パターンから見えてくること。

◎第三章：「中臣氏」の系図から分かること：嫡子相続を平均30年として見えてくること。

◎おわりに

◎はじめに

私は、趣味で系図解読をしているマニアです。ですから、「邪馬台国」が、どこにあるかは調べていません。私がしてきたことは、記紀などの史料に書かれている続柄から正しい（と思われる）系図を作ることでした。

各豪族の系図集は、（それなりに）詳しく公開されているのですが、日本書紀や古事記などの天皇の時代と合わせようとする、（まとまった）系図が作れないというのが、現状でした。

その理由は、記紀の（続柄の）表示に（様々な）矛盾があるからです。

この矛盾のために、「系図はあてにならない」、というのが、今までの古代史における「系図の立ち位置」でした。

私は、自己流で勉強した KJ 法を、系図解読に応用しました。そして、

「矛盾の中に真実が隠れている」という信念で、系図解読に挑戦してきました。私が何をしてきたかという、

それは、系図の中に隠れている法則を見つける事でした。簡単に言うと、系図は（現代とは違う）

古代の常識に基づいて、作られているものですから、その時代（古代）の常識を探ることでした。

私は、系図解読において、（独自の）系図解読の方法を見つけたので、これから紹介をしたいと思います。

◎第一章：（独自の）系図解読の方法：

（その1）：記紀に書かれている続柄は、（古代の常識に従って）すべて正しいとして考えてみました。

__：その「古代の常識」とは何かといいますと、（結論だけを書きますと、）下記の通りです。

__：①娘婿は、子ども（実子）扱いにして、系図に組み込む。

__：②嫁の連れ子は、子ども（実子）扱いにして、系図に組み込む。（：以上の2点です。）

__：具体的に、（日本書紀で）見ていきますと、雄略天皇紀で、吉備上道臣の娘の稚媛については、次のように読み替えます。

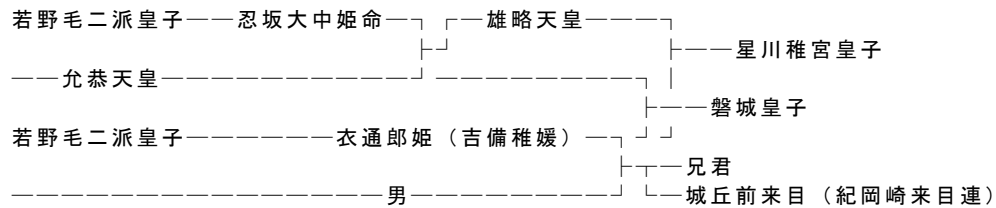
__：雄略天皇の妃である、吉備の稚媛は、（連れ子を含めて）二男を生んだ。兄を磐城皇子といい、弟を星川稚宮皇子という。

__：清寧天皇紀を読みますと、磐城皇子の異父兄である兄君、城丘前来目が云々、と書いてあるため、

__：（実際には、）吉備の稚媛の実子は、4人以上いたことが分かります。

__：また、顕宗天皇紀の記述から、磐城王（磐城皇子）は、允恭天皇の子どもであることが想像されます。

__：これらを（まとめて）系図に書きますと、次のようになります。



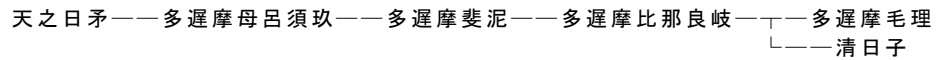
(その2) : 記紀に書かれている記述に矛盾(相違)がある場合には、「同名は、夫婦である。」と考えました。

__ : 古事記は、日本書紀の(暗号)解説書だと、私は考えております。

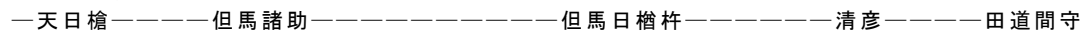
__ : はじめの頃は、「同名は、親子・兄弟姉妹」と考えていましたが、そのほかの(特殊な・隠し事の)場合として、

__ : 「多遲摩氏」の系図を作る(解説する)ときには、「同名は、夫婦である。」という結論に、たどり着きました。

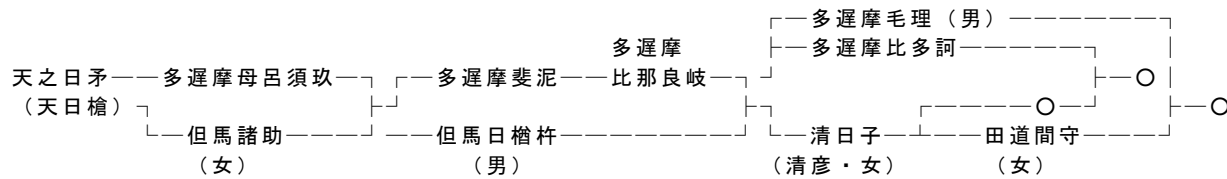
(古事記)



(日本書紀)



※ : 天日槍の子孫で、同名を夫婦にした、系図を作ってみます。

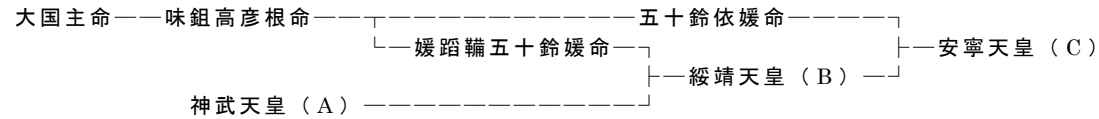


※ : 「多遲摩毛理」と「田道間守」は、夫婦である。そう考えると、系図を作ることが出来ました。

__ : 武内宿禰の(系図)特定でも、この方法で、同じように系図を作ることが出来ました。

◎第二章：「国譲り」の系図パターンから見てくること。

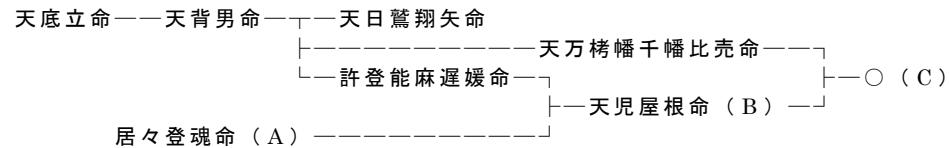
- ―：例えば、「大国主の国譲り」という事象があります。これを系図に表すと、次のようになります。
- ―：普通には「天孫降臨」と云われていますが、ここでは、「神武天皇の即位」としておきます。



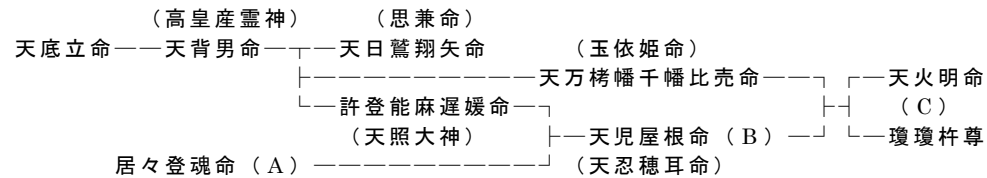
-
- ※：この「大国主の国譲り」は、あきらかに、政権（領主・あるいは王朝）の変更です。
 - ―：天照大神の支配下にある、「国の主」は、派遣された「長官」なのか、「王」なのかという問題は
 - ―：ありますが、「神武天皇」は、「大国主命」から、国を譲られたと、ここでは解釈しておきます。

- ―：この「国譲り」と同じ系図パターンは、古事記・日本書紀（・『古代豪族系図集覧』）の中に
- ―：いくつか存在しています。まずは、その系図パターンを見ていきましょう。

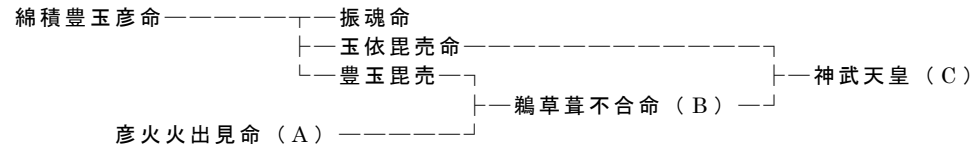
：『古代豪族系図集覧』より忌部氏の系図（P-398）をもとに米田が作成した系図



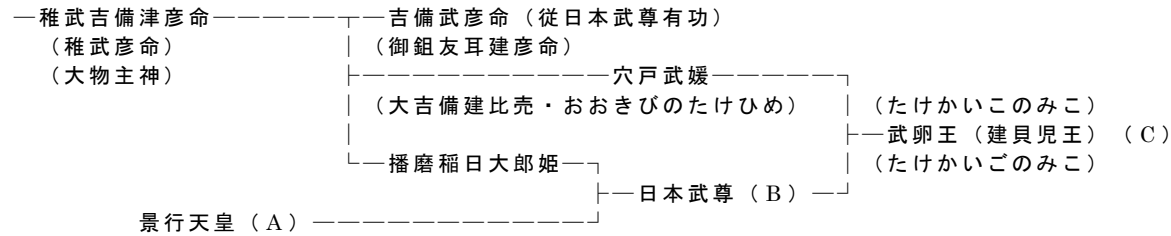
- ※：上記の系図に、（ウィキペディア「栲幡千千姫命」）を参照して作った系図
- ―：（『古事記』および『日本書紀』本文・第二・第六・第七・第八の一書）



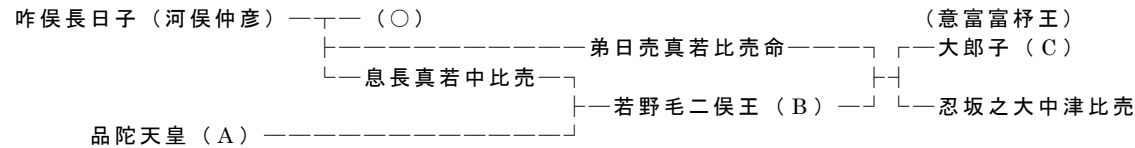
：『古代豪族系図集覧』より「地祇系」の系図（P-6・7）



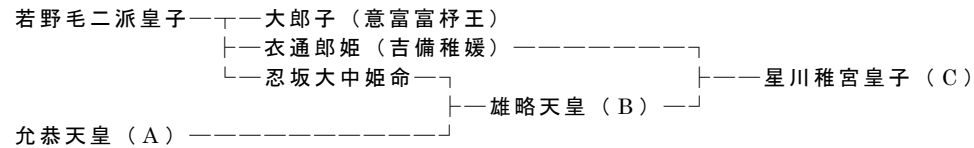
：<吉備氏の系図>：『古代豪族系図集覧』（P-9、P-101）より抜粋し合成した系図。



：『古事記』応神天皇記から、若野毛二俣王の記述



：『日本書紀』雄略天皇紀・清寧天皇紀・顕宗天皇紀の記述からの想像図



※：以上、「国譲り」の系図パターンを、書き出してみました。

__：この「国譲り」は、あきらかに、政権（領主・あるいは王朝）の変更です。

__：けれども、その「政権交代」は、武力ではなく、（2世代にわたる）婚姻の形で、

__：時間をかけて（どちらかという）平和裏に行われています。

__：それにしても、「国譲り」の系図パターンが多すぎます。この「国譲り」の系図パターンは、

__：記紀を詳しく調べると、さらに見つかるかも知れません。

※：これらの系図を見てると、

__：天皇家という（1本の）男子の系統が、本当にあったのだろうか、という疑問がわいてきます。

__：本当は、複数の男系が（競い・争いながら）交互に政権を運営していたのではないか。

__：そんな、想像をしています。

__：もし、天皇家の中に、複数の男系が含まれているとしたら、日本書紀編纂の中で、

__：かなり大胆に（そして確信犯的に）系図の改ざんが、行われている可能性があります。

__：日本書紀による「歴史改ざん」という話になりますと、これは、話が大きくなります。

__：これ以上は、書きませんが、

__：日本書紀（古事記）を調べることは、「パンドラの箱」を開けることに、なりそうな気がします。

__：（個人的には、「パンドラの箱」から何が出てきても、驚かない、という心の準備はしています。）

__：「国譲り」の系図パターンの一つ一つには、ここでは、（詳しくは）触れません。

__：みなさんも、系図の解読を試みませんか。一緒に勉強（探求）してみませんか。

◎第三章：「中臣氏」の系図から分かること：嫡子相続を平均30年として見えてくること。

(始祖) 天御中主尊 (以下07世の孫まで、省略)

- (08世の孫) ・ ・ 居々登魂命 ※：許登能麻遲媛命(天照大神)は、AD25年頃生と推測。
- (09世の孫) ・ ・ 天児屋根命__ (天の岩屋の段に登場) ※：概算で、天児屋根命は、AD45年頃生と推測。
- (10世の孫) ・ ・ 天押雲命 ※：許登能麻遲媛命(天照大神)の没年は、「AD80 ±20年」頃、と推測。
- (11世の孫) ・ ・ 天種子命
- (12世の孫) ・ ・ 宇佐津臣命 ※：(風土記：伊勢国)
：そもそも、伊勢の国は、天御中主尊の12世の孫の天日別命が平定した所である。
※：(天孫降臨・天の磐船のモデルかもしれない) ※：「天の磐船」は、AD157年頃と推測。
- (13世の孫) ・ ・ 御食津臣命
- (14世の孫) ・ ・ 伊賀津臣命 ※：(風土記：近江国)：伊香刀美は、「天女の妹」と夫婦になって4人の子どもを生んだ。
- (15世の孫) ・ ・ 梨迹臣命____ (兄：臣知人命) ※：AD215年頃生と推測。(もしかしたら、梨迹臣命=難升米。)
- (16世の孫) ・ ・ 神間勝命____ ↓ 『古代豪族系図集覧』伊豆三島神社(P-297)美加々比売命(神間勝命妻)
- (17世の孫) ・ ・ (久志宇賀主命)(同世代：角豆命)
- (18世の孫) ・ ・ 国摩大鹿嶋命__ (同世代)古加斐命(崇神朝奉斎伊香具神) 『古代豪族系図集覧』伊香具神社P-340
- (19世の孫) ・ ・ 巨狭山命 『古代豪族系図集覧』津守・住吉神社(P-246)度見媛命(巨狭山命妻・雷大臣命母)
- (20世の孫) ・ ・ 雷大臣命(烏賊津使主：仲哀朝大夫) ※：「度見媛命」=「菅竈由良度見(神功皇后の祖母)」と思われる。
- (21世の孫) ・ ・ 大小橋命
- (22世の孫) ・ ・ 中臣阿麻毗舍
- (23世の孫) ・ ・ 中臣阿毘古
- (24世の孫) ・ ・ 中臣真人
- (25世の孫) ・ ・ 中臣鎌子
- (26世の孫) ・ ・ 中臣常盤
- (27世の孫) ・ ・ 中臣可多能枯 『古代豪族系図集覧』山部氏(P-380)那爾毛古比売(中臣可多能古妻・御食子国子母)
- (28世の孫) ・ ・ 中臣御食子
- (29世の孫) ・ ・ 藤原鎌足(614年生・669年没)

※：系図の解説からは、(場所の特定や移動の時期は分かりませんが、)大まかな生年は、推測することが出来ます。
__：細かい系図の話は、しませんが、独自の系図解説で、(上記のように、)大まかな年代を計算(推測)しています。

◎おわりに

※：系図解説（系図作成）は、個人的には、（独自の「倭の五王」を含め）それなりに

__：自己満足の範囲ではありますが、系図を書いてきました。

__：この2年間で、系図論そのものが、（世間に）あまり知られていないことを知りました。

__：さらに私の系図論は、あまりにもマニアックであることも知りました。ですから、みなさんに、

__：理解してもらうには、どうしたら良いか、今でも（私自身）手探りの状態です。

※：また、この2年間、発表する機会をいただいたことで、自分の考えをまとめる事も

__：出来ましたし、（この発表を含め、）発表するたびに新しい発見もたくさんありました。

__：『古代豪族系図集覧』は、宝の宝庫ですし、「ウィキペディア」も重宝しています。

__：自分の発見ではありませんが、紀年論としての「シンメトリック論」もあります。

：記年論：2005/11/17(木) __（「16/YXRFBRM」氏が発見したシンメトリック論）

：孝霊紀から壬申紀までは、「133/60/68/99/121」 / 「121/99/68/60/133」（合計962年）と区切れて面白い。

※：私の研究の成果を（かなり端折って）簡単に紹介しました。

__：（系図に興味関心を持つ人が増えたらいいな。）

__：私が発表した系図・年代について、意見・質問等がありましたら、

__：「全国邪馬台国連絡協議会 会員交流広場」の方へ、お願いします。

2016年5月11日

米田 喜彦